

## 粉体プロセス分科会 H21年度活動計画

(粉体プロセス分科会 H21年度第1回幹事会資料 2009-0318 より抜粋)

### 活動計画

1. 化学工学会秋季大会(広島大)シンポジウム  
「微粒子テクノロジーの新展開～生成・機能化・計測・特性評価・ハンドリング」  
(担当：空閑(室蘭工大)、松坂(京大)、瀬戸(金沢大)、藤本(室蘭工大))
2. 来年度の企画
  - (1) 粉体工学会粒子径計測研究会(遠藤、大谷)との共催(ナノ粒子の計測と標準粒子関連のセミナー)【案】粉体工業展(10/21-10/24)と抱き合わせ
    - 1) 「標準粒子」については、広島大学の吉田先生を中心に数十ナノから数種類の検定用が検討されているので、その特徴やラウンドロビンテストの結果報告をお願いする。
    - 2) 検定用粒子の応用例(例えば、比表面積測定 of 検定)があれば、吸着関係のメーカーからの報告。
    - 3) 標準粉体規格化の国際動向について
    - 4) 検定用粒子のカバーする範囲での(液相)分散技術
  - (1-2) 粉体工業展(10/21-10/24)での企画(ISO/TC24/SC4(10/21-10/22)との組み合わせ)アカデミックコーナー、テーマ別(ナノテクコーナーとか)のブースで分科会の活動を展示(出展料については交渉が必要)  
大谷：
    - ・開催日は 10/23 or 10/24
    - ・会場は市内のどこかを探す?  
化工関西支部を共催にして大阪科学技術センターで開催?
    - ・粉工展のブースで粉体プロセス分科会の活動を紹介  
後藤先生(岡山大)が粉工展の取りまとめなので  
どのような相互支援が可能か打診する?  
産学連携コーナーへの貢献?
    - ・海外からの ISO 参加者に声をかけて講演を依頼
    - ・ISO の Plenary meeting に参加?
    - ・会社見学?(シスメックス、堀場・・・)
  - (2) 新しいナノ計測技術の紹介に関する講演会(東京)
    - 1) 島津の「誘電回折格子法」の紹介
    - 2) 遠心場を利用した分散安定性評価装置(日本ルフト、ベックマンコールター)  
(←遠藤@産総研)
    - 3) 粉体プロセスにおける粒子径計測(の問題点)として、粉体プロセス(質量基準の分布…たとえば粉砕やサイクロン等分離プロセス、個数基準の分布…エアロゾル等)との講演も入れ込む。←粒子径分布の表示法における混乱がある。その点での指摘も必要。(←遠藤@産総研)
  - (3) 「微粒子工学講演会」(主催:粉体工学会北海道談話会、共催:化学工学会北海道支部)を共催 6月7月の季節の良い頃(参加者あつめが結構大変)。
  - (3-2) 「粉体基礎技術講習会」9～10月(研修会)(道立工業試験場と粉体工学会北海道談話会が技術指導、前後して「微粒子工学講演会」を行い、予算と講師等を分科会から派遣。

- (4) その他の共催，協賛事業の案
3. 化学工学会誌，年鑑の執筆担当について
4. 次期分科会代表について

### 粉体プロセス分科会 H20 年度活動報告

1. 秋季大会シンポジウム「応用展開を目指す微粒子の生成と機能化および特性評価とハンドリング」  
9月24日，25日 東北大学川内北キャンパス  
講演数 29件 うち学生16件，企業 なし  
講演室には常時40名程度は参加.

年会および秋季大会時に分科会幹事会開催.

- 2008年3月18日12時～ : 幹事12名参加  
2008年9月25日12時～ : 幹事12名参加

そのほか，

- ① 「粉砕技術に関する見学講演会」(講演と工場見学会)  
主 催：日本粉体技術協会粉砕分科会、粉体工学会北海道談話会  
日 時：平成20年6月27日(金)、場所 JST プラザ札幌、江別製粉(株)  
参加者：40名(講演会)、32名(工場見学)
- ② International Aerosol Symposium 2008  
主 催：日本エアロゾル学会  
日 時：平成20年8月21-22日(日本エアロゾル学会討論会と同時開催、金沢)  
協 賛：(化学工学会全体として協賛)  
参加者：国内350名、海外30名 をはじめ、6件の協賛行事を開催。